

# 丁寧な挨拶と納期厳守を徹底し 顧客の大切な荷物と想いを運ぶ

創業から30年以上にわたり、運送業を営んできた『石塚商事運輸』。現在の石塚社長は二代目で、2015年に父親である先代から代表職を引き継いだ。社長はドライバーとして現場一線で活躍し、その一方では事業の改革にも取り組んできたという。本日は、俳優の野村宏伸氏が同社を訪問し、社を力強く牽引する社長にお話を伺った。

**野村** まずは、石塚社長の歩みからお聞かせ下さい。

**石塚** 地元・小田原市の出身で、学業修了後は父が代表を務めていたこの『石塚商事運輸』に入社しました。けれども若かったこともあり、先代とぶつかって一度飛び出したことがあるんです。8カ月ほど他所で仕事をしましたが、身体を壊しかけて戻ってきました。その時に改めて、親のありがたみが分かりましたね。

**野村** こちらは、ドライバーとしてお仕事をしてくられたのですか。

**石塚** はい。ドライバーとして長く現場で経験を積み、2015年に代表を交替しましたが、今もドライバーとして現場に出ているんですよ。この道に入ってからではもう四半世紀ほどになり、配送先は、遠い所では東は山形、北は富山、西は明石辺りまでになります。

**野村** 先代の時代と、何か変えられた部分はありますか。

**石塚** 代替わりをする前から、顧客の開拓に力を入れてきました。というのも当社は元々1社のお客様とだけお付き合いをされていて、先代も規模の拡大は望んでいなかったんです。けれども、そのままだとお客様に何かあった時、共倒れになる危険もある。そういったリスクを避ける意味でも、また、先代が立ち上げた事業を大きくしていくためにも、取引先を

増やしたいと考えて取り組みはじめました。とはいえ私には営業経験はありませんし、先代も、一緒に仕事をしている兄も同じ。ですから試行錯誤し、手探りで営業活動を進めてきましたね。

**野村** 成果はありましたか。

**石塚** はい。営業どころか、請求書の書き方も分からないところからはじめて徐々に取引先を増やすことができ、現在は百十数社とお付き合いをさせてもらっています。

**野村** それはすごいですね！ 成功に至った要因は何だったのでしょうか。

**石塚** インターネットで色々調べうち、高橋久美子先生が書いた本と出会ったんです。それを読んで薫陶を受け、セミナーにも参加するようになり、その中でマーケティングなどのノウハウを習得できました。また、同じようにセミナーに参加していた人々との出会いがあり、ネットワークが広がったことも大きな収穫でしたね。

**野村** 良き出会いに恵まれたのですね。では、お仕事の上で大事にされていることは何ですか。

**石塚** どんな時もお客様の大事な荷物をお預かりしているということを忘れず、一つひとつの荷物を大切に丁寧に扱うこと。時間厳守と挨拶を徹底すること。そして、お客様に言われる前にニーズを読み、迅速に行動すること。当たり前のことですが、この3つを従業員にも指導しています。そうして、「ありがとう」と言われる会社づくりを目指し、今後も従業員と共に頑張っていきたいですね。

(2017年5月取材)



代表取締役

石塚 貴光

有限会社

石塚商事運輸

【本社】神奈川県小田原市成田 265-5



車での配送は渋滞もありますし、天候にも左右されます。しかし、それを言い訳にせず、30分前の到着を義務付け、ゆとりを持ってお仕事をされている姿勢が素晴らしいですね。

